

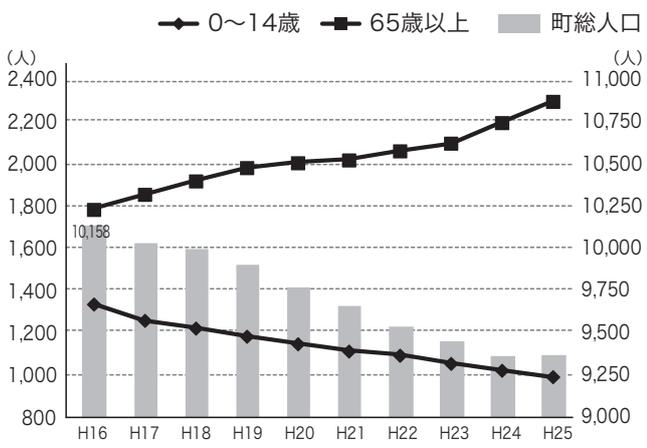


鈴木 喜一郎 議員

町の人口減少、少子高齢化の対策は 各段階に即した施策を行っている

問 全国的に人口減少、少子高齢化の加速が止まらない中、人口問題研究所が発表した将来の五霞町の人口推計では、2040年度には、2010年度と比較すると、68・6%と予測されています。このような急激な人口減少のカーブを施策でいかに緩やかにしていくか、早急にみいだしていくことが大切だと思われるが、町の人口減少の原因と対策及び少子化対策は最重要課題と言えますが、町では現在、子育て支援をどのよう

町の総人口と14歳以下・65歳以上の推移



に実施しているのか。**町長** 人口減少の原因ですが、一般的に女性の社会進出が増えたことにより、晩婚化や未婚者数の増加、就労の場の減少、非正規労働者の増大などが結婚に影響を及ぼし、子どもの出生に影響を与えているものと思われる。また、少子化対策は、一分野の施策の充実だけでは解決できない問題であります。子どもを産み育てやすい環境の整備や子育て支援、男女の出会いの場の創出による結婚の促進、そして若者の定住を図るためのインフラの整備と雇用の安定確保など、総合的な施策

問 近年、社会環境や住民の少子高齢化が進み、空き家なども多く見られ、人口増は望めない状況になってきていることから、新たに町単独の住宅開発を考えてはどうか。周囲に病院やスーパー、介護施設などがあり、通勤・通学に便利な南栗橋駅まで約1キロと利便性のある、キュービー隣接地の小手指地区が住宅地として最適な場所と思われるが、開発は

問 新たな町単独の住宅開発の考えは 答 長期的な展望のもとで検討を行う

可能か。**建設環境課長** 第5次五霞町総合計画の土地利用構想におきまして、長期的な展望のもとで南栗橋駅に近い小手指地区を新たな住居地整備の検討を行う新市街地ゾーンと位置付けております。また、五霞町都市計画マスタープランにおきまして、小手指地区を住居系用途として検討すべき地区と位置づけしております。

しかし、小手指地区の住居地を整備する場所につきましては、農用地区域からの除外後、農地転用許可が必要となります。開発する場合には、国及び県との事前の協議が必要となり、非常にハードルの高い案件と思われませんが、豊かな自然環境と優良な農地との共生を踏まえながら、関係機関と調整を図りながら、今後検討したいと思っております。

を継続して取り組むことが、大切であると考えております。そのため、就職から結婚、出産、育児など、各段階に即した施策を行っております。**町民税務課長** 少子化対策につきましては、町では、平成11年4月から次

代を担う子の出産を推奨し、健やかな成長を祝福するために、就学祝金基金を設置しております。これは、第3子目以降の出生時に基金制度へ氏名を登録して、1人当たり10万円を積み立て、運用益と合わせ、小学校就学前の前年のお祝い金として給付するものでありま

す。平成24年度は、38人の出生のうち、第3子以降が6人で60万円の積み立てを行いました。就学時の経済的な負担の軽減になり、少子化対策の一端を担っていると考えています。